

全視情協通信 / な い - ぶ	1997/7/15
NAIIV	No. 13
発行 発行責任者 川越 利信	
全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協) (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550 大阪市西区江戸堀 1 - 13 - 2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

主 な 内 容

- 第45回全国盲人福祉施設大会 報告 (川越利信) 1
- 島根ライトハウス ライトハウス・ライブラリーに感謝 5
- (投 稿) 全国大会でいつも感じるちょっとした悲しさ (八雲白子) 6
- 全視情協 今後の予定 6
- (施設紹介) 視覚障害者生活情報センターぎふ (藤野克己) 7
- 音訳指導員資格認定講習会日程 9
- 委員会報告 10

第45回全国盲人福祉施設大会 報告

部会長 川越 利信

1 今大会の特色

去る6月19日から21日まで、島根県松江市において第45回全国盲人福祉施設大会(平成9年度日盲社協大会)が開催された。今回は、日本盲人会連合の村谷昌弘会長、厚生省 障害保健福祉部 社会参加推進室の川井一心室長を迎えて、100施設余、約220名が参加して盛大に行われた。

今大会の特色は、「研修の充実」である。そのために従来1泊2日の大会を、今回から2泊3日とすることになった。その結果、初日(19日)には「全員参加による討論会」を行い、2日目(20日)には、恒例プログラムの分科会に加えて、特別研修として、「障害者プランの課題と推進方策について」(藤井克徳氏)、「戦後における盲人運動史について」(村谷昌弘氏)学ぶ時間を持てた。更に、「小泉八雲について」(小泉凡氏)と題して、大会開催地の地元文化に関する特別講演を聴く機会も得られた。

2泊3日の大会は、日常業務に追われている現状から見れば時間を要しすぎとの感もある。しかし、旅費を使って全国から集うせっかくの場である。1泊延長して研修を充実させ、親交を深めることの方がより大事にされているのではないかと考える。

その意味において、今大会は、従来「大会」のイメージに、「研修」のイメージが加わった、特色ある大会であったように思われる。

大会の詳細報告は、法人本部事務局から後日、報告書が配布されるので、本号ではプログラム概要と大会アピール文と決議文のみを後の方で扱いたい。

プログラムについては、情報サービス部会としても、来年以降のために、是非、各施設で検討の上、取り扱うべきテーマを積極的に提言していくようにしたい。

2 重点要求方式の必要性

問題は大会決議である。これは会員一同、十分に考える必要がある。大会決議は、そのまま厚生省に対して予算化の実現をめざして交渉を行う際の基礎資料(要求項目一覧)となる。それだけに、決議文記載順は当然、要求度の高い順に並べるべきである。現在の決議文記載順は、慣例的に定着している部会の記載順に従っている。要求度による順番ではない。しかし、このような項目の並べ方・要求方法では、要求される側の行政当局も対処に困るはずである。現在の運動では、個々人や部会が好き勝手に要求項目を並べているだけという印象を与えていないだろうか? 今の運動方法ではたぶん、社会の支持も得られないし、行政側も対応しにくいのではないかと考える。

「行動する日盲社協」がパワーを発揮して、要求項目の予算化・制度化を実現するためには、重点的に要求項目を絞って、要求項目の順番を決めて交渉に望む必要がある。

順番を決めるためには、会員ならびに6部会が十分な話し合いをし、社会状況やニーズの状況等を考慮しながら、さらには、日盲連との調整を図りながら重点項目を絞っていく地道でねばり強い作業が大事となる。

決して容易ではないと思われるが、そんな調整をなし得てこそ全国組織としての存在意義があるといえる。また、全国組織としての日盲社協の会員であることの意義、メリットも出てくる、と言える。情報サービス部会としても、この問題について、今後、議論する場を持ちたいものである。

3 プログラム、アピール文、決議文

(1) 第45回全国盲人福祉施設大会 日程

18日(水) 16:00～19:00	全視情協(情報サービス部会)運営委員会
19日(木) 9:00～10:15 10:30～12:30 12:30～13:10 13:10～13:30 13:40～16:30 16:40～17:40	部会長会議 理事会・評議員会 受付 オリエンテーション・開会 全員参加による討論会 「盲人福祉施設の問題点と改善方策」 各事業部会
20日(金) 9:00～10:30 10:40～12:00 13:00～14:00 14:10～15:00 15:10～17:00	講演「障害者プランの課題と推進方策について」 (日本障害者協議会 藤井克徳氏) 講演「戦後における盲人運動史について」 (日本盲人会連合 村谷昌弘氏) 特別講演「小泉八雲について」 (島根県立女子短大 小泉凡氏) 講演「障害者福祉の動向と盲人福祉施設」 (厚生省社会参加推進室 川井一心氏) 分科会 第1分科会(点字出版・情報サービス関係) 「視覚障害者と情報提供施設」 (1)点字の普及について (2)これからの視覚障害者情報提供施設の役割とあり方について 第2分科会(リハビリテーション関係) 「視障者のC B Rを考える」 第3分科会(生活施設・盲人用具関係)
21日(土) 8:50～9:50 9:50～10:40 10:50～12:30	各事業部会報告 分科会報告 第45回全国盲人福祉施設大会

(2) 第 4 5 回全国盲人福祉施設大会 アピール

私たち障害福祉関係者が待望していた「障害者プラン」が策定され、自立と共生、バリアフリー、生活の質の向上と安全な暮らしの確保、そして国際協力・交流を基調に、具体的数値目標をかかげて、政府総体の取り組みがはじまってから1年余りが経過した。

また、世代連帯の理念のもとに公的介護保険の導入が進められようとしている。

しかしながら、私たち視覚障害者をめぐる諸環境はノーマライゼーションの理念にはほど遠く、なお解決すべき多くの課題が残されている。

われわれ「行動する日盲社協」に結集する200有余の盲人福祉施設関係者は、第45回全国盲人福祉施設大会にあたり、その総意を4つのスローガン、9つの決議に集約、表明するものである。

われわれは、その実現のために、日本盲人会連合をはじめとする友好団体と相協力しつつ、わが国視覚障害者の明日を開くために前進することを、ここに宣言する。

[スローガン]

- 1 「障害者プラン」の見直しに向けて、具体的な提言ができるよう、現状の点検、対応の研究、研鑽に努めよう
- 2 盲人福祉施設が地域における生活支援の拠点として活かされるよう、「市町村障害者計画」の策定実施を推進しよう
- 3 視覚障害者の特有なニーズに対応する各種施策の実現にむけて、調査研究を進めよう
- 4 盲人福祉施設の使命を自覚し、ハード、ソフト両面にわたる質の向上に努め、時代の変化に即応できるよう努力を続けよう

平成9年6月21日

社会福祉法人
日本盲人社会福祉施設協議会

(3) 第 4 5 回全国盲人福祉施設大会 大会決議

1. 点字図書給付事業の対象に点字雑誌及び拡大図書を加えるとともに、年間限度枠の拡大及び事務手続きの軽減化を図られたい。
2. 点字出版施設の施設・設備の近代化に要する経費の助成を図られたい。
3. 視覚障害者情報ネットワークシステム事業の助成を図られたい。
4. デジタル録音図書集中処理センター設置の助成を図られたい。

5. 視覚障害リハビリテーションシステムを確立するために
(1) 施設を入所型、通所型、訪問型の体系とされたい。
(2) 視覚障害者施設の設備・運営の基準の見直しを行うとともに、訓練機器、情報機器の充実を図られたい。
6. 視覚障害者を入所対象とする更生施設、生活施設等には、生活訓練担当専門職員を配置するとともに、その資質向上を図られたい。
7. 盲人ホームを身体障害者通所授産施設に位置付けられたい。
8. 視覚障害者の授産施設に指導員の増員、寮母、介助員の配置を検討されたい。
9. 障害者の明るいくらし促進事業、市町村障害者社会参加促進事業のメニューに盲人用具展、盲人芸術文化活動等を加えられたい。

以上を決議する。

平成9年6月21日

社会福祉法人
日本盲人社会福祉施設協議会

感 謝

島根ライトハウス
ライトハウス・ライブラリーに感謝

平成元年にも日盲社協大会が島根で行われました。今回、また、島根でお世話していただきました。申し訳なくもあり、ひたすら感謝の想いです。

金津館長はじめライトハウス・ライブラリーの職員のみなさん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

ここに記して、感謝の意を表したく存じます。

【投稿】 全国大会でいつも感じるちょっとした悲しさ

八雲 白子

タバコのための非常識さ

喫煙は、その人の勝手でしょう。やめろとまでは言いません。ただ、喫煙のマナーには配慮してほしいですわ。大会の会場で、講師やゲストの前で、当然のように喫煙する無作法者の多いこと！ 分科会や会議の場で、周囲の人々の迷惑を感じる様子もなく、煙をはき出す、非常識で身勝手な男たち。ひどいものになると食事の席で煙をはき出す信じがたい愚劣な男もいる！ 驚くばかり。

人々に迷惑にならない所で喫煙するくらいのマナーも身につけていない連中が、全国から集まって、大会だ、研修だなんて、おかしいよね。情けなくて、悲しくなるわ！

「大会」は顔、さぼるのは失礼

最後のセレモニー、大会は、さぼるものと決め込んでいる輩が多い。大会はセレモニーだから、厚生省や地元行政関係者、ゲスト、それに表彰ボランティアなど、いわばお客さんがズラリと並ぶ。

でも、会員の多くは、なんだかんだと言って、観光に出かける。大会の会場には表彰ボランティアと表彰職員、それにお客さんが残っているだけじゃないの！ ちょっと言い過ぎかもしれないけど、それに近い雰囲気。観光は、プログラムが終了してから出なければいいじゃないの！

セレモニー（大会）は三日間の研修と日盲社協の年間活動が凝縮されて表現される場なのです。「行動する日盲社協」の顔なのです。「大会」のもつ意味をしっかりと考え直さないといけないわ。

地元で大会をお世話くださる主管施設のみなさんのお気持ちを考えると、悲しくなります。さぼるなんて第一、失礼よ！

「大会」は大切なプログラムです。

これからは大事にしましょう。

= = 全視情協 今後の予定 = =

- 7月 18日(金)~20日(日) DAISY / PLEXTALK国際総括評価会議(東京・戸山サンライズ)
- 21日(月)~22日(火) DAISYコンソーシアム技術会議(東京・新宿ニューシティホテル)
- 22日(火)~23日(水) サービス委員会(日本点字図書館)
- 23日(水)~25日(金) 点訳委員会(視覚障害者生活情報センターぎふ)
- 8月 27日(水)~29日(金) 点字指導員研修会(東京・アルカディア市ヶ谷)
- 26日(火)~29日(金) IFLAコペンハーゲン大会 S L B 専門家会議
- 9月 24日(水) 運営委員会(帯広市)
- 25日(木)~26日(金) 第23回全視情協大会(帯広市)

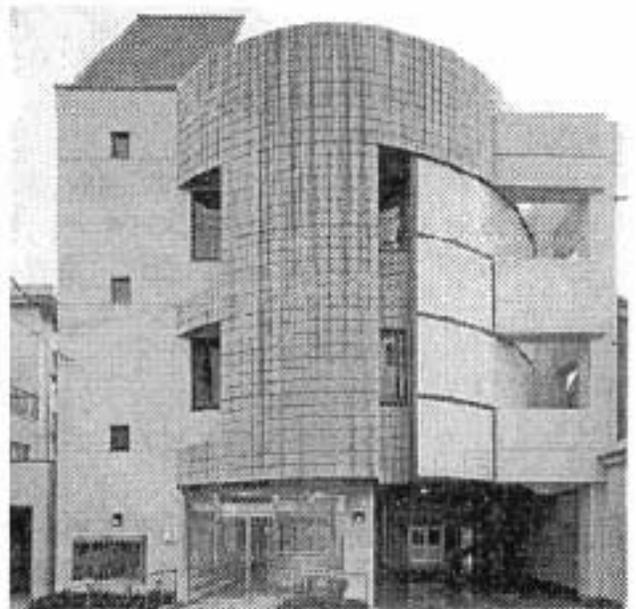
【施設紹介】

地域性を活かしながら、 全国を視野に事業を行う

「視覚障害者生活情報センターぎふ」が目指すもの

視覚障害者生活情報センターぎふ
館長 藤野 克己

去る3月31日に「視覚障害者生活情報センターぎふ」の落成式を行い、翌4月1日から、事業を開始しました。ここは、愛盲館の名前で全国の視覚障害者に馴染んでいただいていたが、4半世紀を経て、新しい事業展開をするために建物と名称を新しくしました。同時に、1941年から使っていた「岐阜訓盲協会」（財団法人として発足し、1960年に社会福祉法人）の名称も「視覚障害者とともに生きる」という私たちの姿勢に合わせて、「社会福祉法人岐阜アソシア」（アソシアは、仲間・連帯を意味する「アソシエート」が語源）に変えました。



（建物の正面）

準備段階

建物の老朽化のために、何箇所かで雨漏りがするようになり、また、大勢の人が2階に上がると、床が抜けるのではないかと心配をするようになりました。また、愛盲館の前身である「岐阜聖公会訓盲院」開設100周年が間近に迫ったので、建物の建て替えと、

第2世紀の事業をどのように展開するかというテーマで、利用者・ボランティア・職員から成る「愛盲館将来構想委員会」を発足させて、検討を始めました。これが5年前です。同時に、建築資金の積み立ても開始しました。

建築の実施

1996年2月に、補助申請をしていた日本船舶振興会から補助の内示をいただき、同時に岐阜県からも補助金の内示をいただいて、建築が本格化しました。

1996年7月1日から、工事が始まり、建物の取り壊し、整地、建築と進み、1997年2月末に、現在地に鉄筋コンクリート造り4階建て（993平方メートル）が完成し、既設書庫（鉄筋3階建て）と合わせて、1,200平方メートル強の施設規模になりました。

事業内容

従来から行っている点字図書館業務に加えて、次の業務を展開します。

生活相談部門

1. 生活相談
視覚障害者から寄せられるあらゆる相談に応じる。
2. 「かがり火97」の開催
期日：1997年8月30日（土）～31日（日）
会場：ホテルせいらん
今回も、利用者・ボランティア・職員によるスタッフ会を組織して、企画・実施に当たる。
3. 施設機能強化事業の実施
 - (1) 一日点字教室
夏休みを利用して、中学・高校生を対象に、広く視覚障害者に対する理解を深めるために実施する。（7月、8月に1回ずつ開催。いずれも9:30～16:00）
内容 視覚障害者の状況（講義）
点字の読み書き（実習）
誘導法（実習）
所内見学
なお、誘導法の実施に当たっては、視覚障害者の協力を得る。
 - (2) 第6回体験ツアー
視覚障害者の社会体験を広めるため、「はもんの会」の協力を得て実施する。
期日、内容等については、利用者、ボランティア、職員によるスタッフ会で詳細に協議する。
4. 視覚障害者外出サポート事業
 - (1) 視覚障害者の外出希望を実現するための事業の一層の充実
 - (2) 他県の外出サポート事業実施団体との連携（「歩みの広場」への参加）
5. 日常生活用具の収集・展示（新規）
6. 各種クラブ活動の推進（新規）
視覚障害者と晴眼者で組織するクラブ活動に、広報、会場・機材の提供などで協力する。
例：茶道クラブ、華道クラブ、料理クラブ、手芸クラブ、川柳クラブ、パソコンクラブ、盲人卓球クラブ など
7. 視覚障害者福祉協会等の行事や活動への協力
8. 資料室の充実と利用促進（新規）
 - (1) 視覚障害者に関する参考資料の収集
 - (2) 視覚障害者福祉に関する歴史的な資料類の保管・整理

技術指導部門

1. 歩行指導の実施（新規）

- (1) 日本ライトハウスが行う歩行指導員養成講座（97年4月～10月）への職員の派遣
- (2) 個別及び集団による歩行指導
- (3) 一般市民への誘導法の普及

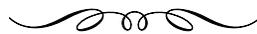
2. パソコン指導の実施

3. 中途視覚障害者に対する点字学習指導

上記のように、地域の視覚障害者の幅広いニーズに応えるとともに、民間施設の長所を活かして、全国へ活動の範囲を広げます。

特に、地域においては単に点字や録音の図書情報だけでなく、生活全般に関する幅広い情報が求められています。多くのボランティアの方々の協力を得ながら、これらのニーズにきめ細かく応えていきます。また、多くの市民の方々に視覚障害者が抱える問題を知っていただき、協力が得られるように、啓蒙にも力を入れていきます。

そして、これらの事業を通して、「視覚障害者とともに生きる社会」を目指します。



音訳指導員資格認定講習会 日 程（予定）

11月25日（火）	9:00 10:00～10:30 10:30～12:00 13:00～14:30 15:00～17:00	受付開始 開講式、オリエンテーション 盲人福祉概論 点字図書館概論 音訳者養成法
11月26日（水）	10:00～12:00 13:00～14:30 15:00～17:00	音訳評価法 録音・編集技法 調査技法
11月27日（木）	10:00～12:00 13:00～14:30 14:30～15:00	処理技法 校正技法 閉講式

会場：新大阪シティプラザ

〒532 大阪市淀川区宮原4-5-30

委員会報告

平成9年度も、各委員会を中心に順調に活動が行われています。4月以降、開催された委員会は以下の通りです。日程順に簡単に報告します。

第1回点訳委員会

4月23日(水)～24日(木)

視覚障害者生活情報センターぎふ・長良川スポーツプラザ

出席者：染谷洋子(カトリック点字図書館)

櫛 玲子(大阪府盲人福祉センター点字図書館)

伊藤邦子(日本点字図書館)

高橋恵子(千葉点字図書館)

水谷吉文(天理教点字文庫)

山田智直(視覚障害者生活情報センターぎふ)

細川啓子(石川県視覚障害者情報文化センター、旧委員長、23日のみ)

1 平成9年度点字指導員研修会について

(1) 開催要項の決定

(2) 点訳問題の検討

(3) 要項発送、申し込み受付、受講者決定までの作業分担

2 「点訳問題集 例文編」の発行について

(1) 発行までの作業の最終確認

(2) 発行予定日を過ぎているので、できるだけ急いで発行する。

3 その他

(1) 今年度のメンバー確認

2名欠員ではあるが、当面は6名体制で委員会を行う。ただし、点訳問題の採点等、作業上、人手が足りなくなる場合は、その都度、臨時のお手伝いをお願いすることとする。

(2) 今年度の計画

・「点字指導員研修会」の開催

・「校正問題集」の発行

第1回録音委員会

5月15日(木)～16日(金)

日本点字図書館

出席者：村井 晶人(日本ライトハウス盲人情報文化センター)
 矢口 町子(茨城県立点字図書館)
 兄父由紀子(福井県視力障害者福祉協会点字図書館)
 熊谷 成子(静岡県点字図書館)
 河合 和美(名古屋ライトハウス盲人情報文化センター)
 天野 繁隆(日本点字図書館)

- 1 音訳指導員資格認定講習会について 音訳指導員資格認定講習班
 - ・受講者から内容的に重複しているとの指摘もあり、整理した結果、講義13単位を8単位とし、これまで前期・後期に分けて2か年で行っていた講習会を、1期1年とする。
 - ・今年度の会場・日程については9ページに記載しています。参考にして下さい。
 - ・今後のスケジュール
 - 7月末 開催要項発送
 - 8月末 受講申込締め切り
 - 9月末 参加通知書発送

- 2 DAISYの配布について デジタル録音調査・推進班
 - (1) 委員会として、DAISYを配布する。
 - (2) 配布対象は、全視情協加盟施設と、希望する公共図書館ほか。ボランティアへの配布は各施設の意思にまかせ、委員会としてのサポートは行わない。
 - (3) フロッピーディスクで提供する。
 - (4) 英語マニュアル、邦文マニュアル(シナノケンシ社・田中氏作成のもの)、インストール・マニュアルが添付される。
 - (5) サポートに関しては、関東以北は日本点字図書館が、中部以南は名古屋ライトハウス盲人情報文化センター・日本ライトハウス盲人情報文化センターが担当する。ただし、配布施設へのサポートのみで、ボランティアを対象にしない。また、SCSIの設定などハード面については、サポートを行わない。
 - (6) パソコン新規購入施設に対しては、デスクトップ型・ノート型それぞれに現時点での推薦機種を紹介する。また、DAISYを試してみる場合、CDを作成する場合のそれぞれのシステム構成ならびに購入価格を例示する。
 - (7) フィールドテストを終えた PLEXTALK を全視情協加盟施設に貸し出してもらうよう、プレクスター社に要望する。(PLEXTALK のPRおよび CD-R作成後の確認のため。)

- (8) D A I S Y 導入に關してのボランティア養成マニュアルについて
現在名古屋ライトハウスでは D A I S Y を使用するにあつてのボランティア養成を行っているが、このノウハウをマニュアルとして作成できないか検討する。
- (9) 加盟施設録音製作部門へのアンケート調査を行う。
調査項目は、 製作力 (設備、ボランティア数、配置職員数)
財源 (資材関係予算、機材関係予算)
意識調査 (職員、ボランティア)

第 1 回サービス委員会

5 月 2 7 日 (火) ~ 2 8 日 (水)

日本点字図書館

出席者：小野俊己 (日本点字図書館)
工藤孝雄 (日本ライトハウス盲人情報文化センター)
川崎 弘 (千葉点字図書館)
高見伸枝 (三重県点字図書館)
佐藤裕美 (山形県立点字図書館)
下村光子 (静岡県点字図書館、旧委員)
内山敏子 (視覚障害者生活情報センターぎふ、旧委員)

- 1 新メンバーを 2 名迎えた (欠員 1 名)
「日本の点字図書館」実態調査の経過について説明
- 2 「日本の点字図書館 No.14」および「点字雑誌一覧」「録音雑誌一覧」「点字図書館児童図書の利用調査報告」の発行作業について
「日本の点字図書館 No.14」は、製本・印刷を (株) 大活字に依頼
(加盟施設、関係者等への発送は 6 月中旬に済ませた)
- 3 サービスの標準化について経過説明
- 4 第 1 5 回実態調査について
 - ・調査項目の検討
 - ・報告書のタイトルは、「日本の点字図書館 1 5 - 平成 8 年度全国視覚障害者情報提供施設実態調査 - 」とする
- 5 今後の予定
 - ・調査票の発送 6 月第 1 週
 - ・調査票の回収 6 月末
 - ・調査データ集計 8 月中
- 6 その他
 - ・音訳指導員資格認定講習会 1 日目 (11 月 25 日) に「点字図書館概論」を受け持つ
 - ・公共図書館との連携について

点訳委員会中部小委員会

6月4日(水)

視覚障害者生活情報センターぎふ

出席者：櫛 玲子(大阪府盲人福祉センター点字図書館)

水谷吉文(天理教点字文庫)

山田智直(視覚障害者生活情報センターぎふ)

点字指導員研修会(8月27日~29日)の準備

(1)受講者の決定

(2)「点訳ボランティア養成講習会のカリキュラム」(グループ学習)について
モデルの作成、受講者にどのような形で指導実技をしてもらうか等

第1回ネットワーク委員会

6月30日(月)

日本点字図書館

出席者：河村 宏(日本障害者リハビリテーション協会)

荒川朋子(石川県視覚障害者情報文化センター)

秋葉博子(千葉点字図書館)

小野俊己(日本点字図書館)

工藤孝雄(日本ライトハウス盲人情報文化センター)

村井晶人(同上)

書誌データ管理システムの統計処理の確認のため、今回はサービス委員会からも出席を求め、合同での委員会を開催した。

1 書誌データ管理システムの進捗状況

(1)当初予定より半年遅れている

(2)今後2ヶ月程度で統計部分まで含めて完成させる予定

2 書誌データ管理システムの統計処理について

(1)サービス委員会が実施している実態調査の項目との関連を検討した。
システム導入施設が業務に使った結果の数字(統計値)データをシステムから取り出し、まとめることにより、実態調査に活用する。

(2)現在のシステムは書誌データ処理が中心となっているが、第二期の貸出システムの開発についてはサービス委員会と協議を行いながら開発を進める。

業界初！！

「UCC点字表示入り自動販売機」

弊社では、従来より小さなお子様やお年寄り、車椅子を使用されているお客様などの利便性に配慮したハーティーフンクション自動販売機の展開を進めてまいりました。今回は更に「点字一体型製品サンプルカード」を組み込むことにより、視覚障害をもつお客様にもご利用いただきやすい自動販売機を開発しました。

◎点字表示入り自動販売機の特長

(1) 点字付き製品サンプルカード

点字シールで製品名・内容量・販売価格を表示し、より多くのお客様にご利用頂けるようになりました。

(2) 大型低位置押ボタン

どなたでも操作しやすいサイズと高さに位置しています。

(3) 中央取出口

かがまずに楽な姿勢で製品が取り出せます。

(4) 受け皿方式のコイン投入口・返却口

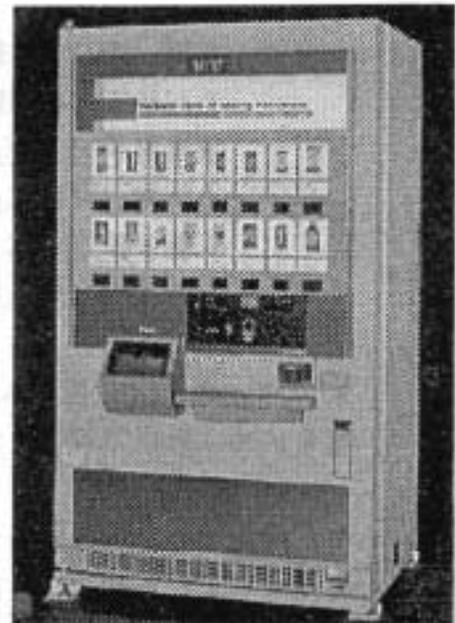
複数のコインを一度に入れやすく、取りやすい受け皿方式です。

(5) コイン返却ボタン

コイン返却が操作しやすいフンタッチボタンです。

(6) テーブル付き

お買い上げ頂いた製品や、ちょっとした手荷物などを置くための便利なテーブルをお客様の使いやすい位置に取り付けています。



お問い合わせは UCC上島珈琲株式会社 飲料事業本部

〒105 東京都港区浜松町1-18-13住友浜松町ビル

TEL 03-5400-5541